A. Arashi fuku, Mimuro-no-yama no, Momiji-ba wa;
Tatsuta-no-kawa no, nishiki narikeri.

B. Forgot may be the Lowly bed
from which these Darling Flowerets Spring;
Still let a Kinoly bew be shed,
upon their early Nurturing.

女學雜誌第三拾壹號目次

●社說 厚生館女學演說(レビット夫人)の筆記
●叢話 子供に錢を持たす事、附り、學校貯金の事○西洋婚姻談○ときな演說第一席
●論說 女子の敎育と論じ併て耶蘇敎擴張の法を說く(外山正一君)
●佳傳 ナイテインゲールの傳 太閤秀吉の奥方○梅香女史の傳●
新報 十則
●廣告

●珊瑚の玉 (九)

●一國の事を行ふには女を女とし男を男として特別に為すべきことあるにあらざ實に一樣の禀質と平均に賦與されたり矣故に男子をしてよく發達せしめたるの事情は亦たよく女として發達せしむべし(プラトー)

●吾人假に定めて云はん女は心力に於ても德性に於ても亦た体力に於ても到底男子に劣りたりと然れども此の實事によりて所云る女權なる者を無みせんとするは果して何の理ぞや若し實に女性は男性に劣らんには吾人何ぞ此の劣りたる者を助けてよく發達せしめ啻に女流を救濟するのみならず以て人類一汎を發達せしむることを爲ざるや(ホックスリー)

●女事の文章に繫さは國の貧なり、(管子)

甲。あらしふく三室の山の紅葉ばはたつたの川のにしきなりけり(能因)

乙。山がつのかきほあるともおり〳〵に哀はかけよなでしこの露(夕顏)

女學雜誌　第參拾壹号　明治十九年八月五日

●社說

○過飲及家內諸不德に對する婦人の義務

万國婦人禁酒會書記　レピット夫人　演說
渡瀨香芽子　口譯
三田泰光君　筆記

右は去月十七日厚生館にて催したる演說の筆記にして當時林茂淳三田泰光外一人三氏が速記法にて寫されたるものなり論說の主旨を吾人の同に主張する所なれば今之を玆に掲ぐ

私は今日此の所にて皆さんに御目に懸り女の身に取りまして要用なることと又面白きこととの御話しを致しませうと思ひます。既に皆さんも私が亞米利加の禁酒會から參つたことは御承知で御座いませうが私の國で禁酒會の起りましたのも只今から十二年前で御座りましたが今日は實に盛大に赴きました、何卒此の御國に於ても斯の如く盛になることを望みます。此の會を起したる譯はアルコール質は強いものを飲みまする弊害が各國に行はれまして人々が害を受けませんから其れを矯め直さうとする目的で起したもので御座います。私の國即ち亞米利加で強い飲み物を飲むことを止めまして此の會を盛に致す譯と云ふものは此の強い飲み物を止めましたならば人は命も長くなりませうし又人の害を爲すものも止ふと存しましたからで御座います。此の頃の新聞を見まするに何れの國に於ても酒を飲むことを政府で禁じたといふことは無いと云ひませんが酒も鴉片の様に禁じて貰ひたいもので御座りません。私の國におきましては或は政府の役人とか或は上流の人とか申す人も友達の交際には例令少々なりとも之を飲むのが例となッて居りました。併しながら只今の所では位の高き人も追々強い物を飲まぬ様になりました。そこで客の來た時に酒を出さないのが失禮だとかいふことは無くなる様になりました。なぜなれば酒は人の命を縮めるもので御座いませんから。而して私の誠に御國の爲めに悲しませることは外國の酒が輸入して御國の人が外國の酒をも飲む様になりましたことでそれは私の尤も哀しみまする事で御座います。さうすれば歐米に於て酒が害を爲す如くコチラにも其害が行はるゝことになりませう。日本政府は人民に對して利益になることを圖られますが若しもその様に女のことに關しても亦美しいことを勸める様になされたならば尙更開化となるで御座いませう。

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

私ハ御國の婦人が只今の有樣でも爲すことが澤山ありまそ。又男が爲するよりも女が爲さバ多くの力が有るだろうと存じまそ。なぜ女のすることに力が看ると申せバ女と申そものハ人々の母となり已れの身一つで子供を育てまして一歳二歳三歳のころハ他の人が話しをる前に母親が其の子供に話しますから思ふ所のことをよく〳〵めめましたらば大きに其の效が御座りませう。而して其の育てらるゝ子供ハ後々世ニ出でゝ立派なものになりまするも皆其の母の育てやう次第で有りまそ。

私も若しも出來まするならバ國中を回りまして貴國中の御婦人方にお話しを致したいと思ひまそ。この事をお話し申しまするのは婦人達の智識を擴くする爲めで御坐いまそるから左樣御承知下さる樣に致したい。又今日こゝにお出でのお方の中には新らしき話しとお聞きになる方も御坐いませうが其れ方ハたゞ善いことゝきめて去まハないで能く心に考へて御覽なすッて善いこととお思ひなそッたら實地に行ッて下さるのが本當であらうと考へます。其れ故今日お出でになッたお方ハ能くお考へよありましたらお友達ハ勿論お召遣の者其の外日傭取りの樣な人にもあなた方と同じ考へを爲す樣お話し下さるゝとを願ひます。

而して私も今お話し申した酒の害の如く同じ樣なる强い所の害の有るものを用ひない樣に願ひまそ。其れハ煙草のことで御坐います。私の國に於てハ女で煙草を吸ふ者もタッタ一人見ました。然るに私ば此れ御國に於てハ多くの婦人方が烟草を吸ッて居らるゝのを見ました。下等社會の婦人のみで無く上等社會の婦人方で烟草を吸ふ方が有ると聞きました。其れハ虛説ですか本當でそかドゥで御坐いまそか存しませぬが若し本當で御坐いますなら之を愼みて止め玉ハなければ子供の成長を止めまして年代の進むに從ひ小さく弱い人が多く出來る樣になります。其れ故母親たる者ハ子供に强い飮ミ物又烟草などに觸はりませぬやうにをしへました方が宜しう御坐います。私も二三日前本國の新聞を見ましが其中よ烟草の爲めに命を失ッた者のあるといふみとが載せてありました。あれは子供が親よ隱して烟草を吸ッたので御坐います。日本の政府ニ於ても烟草を吸ふことを禁ぞる樣に去たならバ誠に善いみとと存じます。

私ハ强い飮ミ物と烟草との外に倘ほ害の有る物ごとの御話しを致しませう。其れはあまり淸潔を無いことで御坐います。

一旦婚姻を致しまして又外の者と婚姻をするといふことは潔いことで御坐りませぬ正しいことでは御坐りませぬ。又日本の人は膚を現はすのを何とも思ひませぬ樣で御坐いますがこれは甚だ宜しく無いことで御座います。殊に婦人は猶以て膚を現はさぬ樣にしなければいけませぬ。其れもたゞ男の前ばかりを憚る樣で有りまして平常と愼みませぬなれば其の詮は有りませぬ。私は二三日前に人の見る所で行水を遣ッて居らるゝを見ましたが箇樣なことは今まで見たことが御座りませぬ。其れで今日こゝに居らるゝ御婦人は高い所のお人にも又日傭取りの樣な者にも能く此話し下さる樣に願ひます。どの位、貧しいものだからと云ッて箇樣なことをしてはいけませぬ。箇樣なことは成るたけ子供の時からよく仕付けなければいけませぬ、小さい時の習慣をよく守ッて居るもので御座いますから。而して子供を敎ふるにも子供が裸にならうと申したとて巡査に叱られるなどと嚇すのは宜しくありませぬ膚を現はすのは兄弟に見られても耻づべきことで有ると云ッて教へる樣に致さなければなりませぬ。其れには母たる者が衣服を着せ替へる時などに着物と云ふものは箇樣な人の居らぬ所で着替へるもので必ず他の人の居る所で着替へるものでは無いと申したなら子供はさうすることと思ッて居りませう而して子供は段々大きくなるものゆゑ追々清潔のことも教へなければならぬ考へと云ふものは清潔にしなければならぬものだといふ考へを能く起させるのが第一で御座ります。

● 叢話

○子供に錢を持たす事
附り、學校貯金の話

余曾て或る斷髮師の許にゆき髮をつませたるとき一二人の客をはりて偖て余の番となれる凡そ前後一時間が程に八九才と見ゆる其家の子供二度びまで錢をねだりに歸りたりお母さんヨーヨー御呉れヨー呉れないと此處に錢を持つて行くなどゝ久しく惡口し居れるが遂に母親の辛棒や劣りけん確か五厘錢と見ゆるを渡したるを受取や否や引たくる景色に走り出でたるが其事の有樣實に吾人の腸をさくやうなりき一時間が程に二度までねだる割をもて考ふれば一日に尠くとも八九遍は若くそるならん然らば一日に大抵四五錢の錢をかゝる卑しく且つ不養生なる事につかふとなり思ふに斷髮師、商屋、の如き小錢の出入甚しき家には特更に此弊あるとなれば何處にても前に

申す程の子供ありと云ふにはあらざれども都の内外下流の戸々について之を觀れバ與ふる所の多少ハ固より一樣ならざとも大抵みなナンヅの錢を子供にわたすものと知るべし

抑々此のナンヅの錢を與へて子供に買食さすることハ其害いろ〳〵ありて末にハ測るべからざる不德をも來すものなり先づ數度び菓子食物の類を食ふより腸胃を損そるハ勿論三度の定りたる食事は甘からぬやうとなりて遂には飯をいとひ間食ならでは事たらぬ習慣を生ぜるも衞生上の大害なり。一日に少きハ一錢多きハ四五錢を費そとすれバ月に平均三十錢乃至一圓五十錢なり此額あらんにハ一職の仕事も出來またハ子供に大切なる修業もさせ或ハ品物とも買ひ得べからんをか〻る有害のなぐさめに遣ひ棄てさそるハ親の經濟にとりて大損なりまた子供ハ幼きときより錢をみだりに遣ふこと覺え情慾の爲に用ゆる金を勞働とせど自由に誤らる〻と云ふ習慣を自然に覺え込みても成人して經濟のもてる筈なし況んや日々時々之をねだりて止まざれバ万一好むま〻に與へられざるとき密かに錢箱のうちより盜み出して買食するに至ることも珍らしき話にもあらざ幼きうちよりか〻る習慣を子供に仕込むことも子供が後日の立身にとりても亦たその德義にとりて共に大なる害あることなり

子供に錢と持たせて買食さするの害如此く多し世の敎育に從事するものハ固より子を愛する兩親ハ特に深く之を思ふべきなり然るに吾人が之を茲に述べて貴婦人の注意を乞ふハ此一事たる世の母親たるもの〻尤も多く心得べき事ならんと思ふが故なり吾人子供の錢をねだるをきくにお父さんと云ふも知らざ必ず母親について之と求るなりよし父に求めたりとも父ハ斷じて之と承知せざ多くハ叱り懲すなれども母ハ大抵懇氣まけして之を渡そ如しされバ世の母親たるものハ初めよりよく掛念して錢を子供に與へ自ら買食するなどの習慣を仕込む可らず少かの手數か〻るとも預め菓子果物を求め置き時を計りて其手より之を與ふべし思ふに如何なる母親なりとも其子をして遂にハ盜心を起さそべき程の買食を爲させ安心するにあらざるべし

されどか〻る買食とさするは大抵下等社會ハ有樣なれバ女學雜誌をよミ玉ふほどの貴婦人へ對して斯る注意を申上るハ寧ろ失敬の趣ありとも云ハんか然れど吾人ハ斯る貴婦人をしてかの下流の母親たるものに傳敎と乞ひ遂に如此き習慣を全廢したしと思へバこそ此樣のことと申すなり況んや近來子供

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

に錢を持たすも是か非かなど云ふ議論教育家の間に沸騰したる有樣なれば吾人も亦ついに此の言を述べて錢を持たすの大害あることを主張することとなれるなり

思ふに教育家中子供に錢を持たすことを贊成する人あるは何如なる考のありてなるか一向に分らざるなり聞ならく西洋に學校貯金と云へる制度あり學校內に金預所を設け教員其事務を取扱ひてたゞ子供にのみ貯金を許すと云へり此制度實際には甚しき利益ありて敎育上に裨益あること尠からずときく歐米にて此事の尤も盛んに行はるゝは佛蘭西にて去年一月の調査によれば貯金所を設けたる學校は都合二万三千ヶ所あり預主は四十八万八千六百二十四人の子供にて總計一千一百二十八万五千〇四十六フランク（二百二拾五万七千〇九圓二十錢）の金額を貯ふと云へり我國もしかゝる制度を立てゝ學校に登る子供等が褒美に貰ひたる金も茲に預け物かえとて貰ひたるをも茲にあづけ母上菓子をかひたまはるべき金をたまはゞ學校へ預けて額をまし候などと云ひ互に競ひ合ひて貯金せる有樣となりなば此時こそ則ち子供に錢を持たすることを贊成すべき時ならん然れども今日に於て之を言はゞ吾人は徹頭徹尾子供に錢を持たすことに反對し其害の及ぶ所ろ決して少小にあらざることを熱心に主張するもの也

○西洋婚姻談　（第四回）

若し又紳士の申出を受べき愛娘孃の心にあらずして約束を退くることあらんには娘孃は心より之を氣の毒に思ひ乍らいと鄭重に返事すべし抑もかの紳士は世に女たるもの多かるうちより其身を撰みて信切の交せんと爲し玉ふも此上なき榮譽なるにたゞ不幸にして御承しがたき事情ありての斷なれば幾重にも好情を謝して答ふべし且つこの時までに約束したる男子あらばかの紳士へその事を明らさまに話すこと此時の禮なりと知るべし又前にも申したる如く男子よりの申込は必ず口にて述ぶべく手紙にて言ひこすまじきなれども假令ひちとの禮に反きて手紙もて之を言ひこすとも娘孃より返事せずにあるはまた禮にあらず况んやかの男子の手紙を受取らずして返すなどは失敬の至と心得べし尤も何事か不都合の有樣にて手紙を送りこせしならば之を受取らずして返却すること勿論なり斯るときは娘孃たるもの其由を兩親又は後見に告げて其手より先方へ返却することとすべし」此時紳士は宜しく考ふべし娘孃の不承知は倘ほ已か心術を知らざるが故か又は全く已を嫌ひ他に倘ほ愛情の目的となるものあるゆゑかと若し後に言ふ如

きゆえなりと認めなバ須らく一個の男子として直ちに關係を絕つべしかよわき女の心を苦しむるも忍ぶまじきことなれバなりされど若し前に云ふ如きもえと知らバ倘ほ交をつゞけて已が心の知らるゝを待ち春天とゝもに溫まりて情花のひらく時あるまでを忍ぶべし

紳士娘孃ともに意氣相投じ申込嘉みし納れられて互に深く約するに至り一方の兩親若くは後見ゟ於て結婚の事を不承知と言ひ張らバ紳士娘孃よく〳〵其反對の起るゆえんを考え其元もし身分の不釣合もえとあらバ宜しく勉强して身分を高むべし金なきゆゑとならバ金を貯ふべし品行に不可なるところありとの故ならバ宜しく愼んで省を改むべしかくて年久しく忍耐し遂に兩親後見等の承諾を受けて芽出度握手するに至らバ幸の甚しきものと云ふべし思ふに兩人の相慕ふや慕ふ所の人を除きては亦人なき程にあらざれバ不可なりさらバ幾年の間忍耐して之を待つとも怨なかるべし兩親後見の不承知を犯して早く結婚する如きは此國にも倘ほ完全なる心得とは認めざるとなり

以上ハ一方に於て不承知なるか又ハ何事かの妨あるときに付て言へる極めて面白からざる談なり因りて此より前段に立歸り双方万事いと芽出度相納まり結約も都合よく調ひたりと云ふ比より以后の事を談すべし

○をきな演說　第一席

此頃女學演說と云へるものゝある趣新聞紙面にて承りたればバ吾等年老ひて暇ある身も孫娘など召び集めなバ二三十の人ハありなん切てハ年おろ心得とさとりたる事々を談りて女の身の世界を周遊し玉ふなど云ふ御奮發の端にも倣ひ候はんと存じ世ようとまるゝ翁ども五六人あつまりて演說仕まつりぬ一とはしがきありての筆記は

さて第一に拙者が御談を致しまするは別段珍らしい事でハありませんがそべて女と云ふものは早合点が早いもので拙者などのやうにゆる〳〵話とする族がまづ一と言二言申しまると早やア、であらうイヤ斯であらうなどと推量をつけかんじんの話よりハ一町も二町もさきつ走りをするのが大抵の有様ジヤ此は甚ざイカン物で旦きから見ても眞に惡いやうジヤあのお梅さんハ居らつしたとき妙なことを仰しやつたが私が斯う言ひましたもんだからサあんなに御言だつけアレも大方かう云ふ御積ぶらうがなど〵いろ〳〵に話のすじを伸して見てまことに腹が立つとか癪の種ふとか言つて年中氣バかりもむ

のハ木曾でないからみそ火が出んのが幸ジヤテ皆さんも聞つしたらふ昔し芭蕉翁と云つて名高い俳偕の上手があつたが古池に蛙とびこむト云ふと自らさびしくなり道側の椽ジヤと云ふとおかしくなるやうに甘くよまつした人ジヤ然るにある時田舍へ行脚してまいられたる夜村の人が五六人集つて何んだか頻りに髯をひねりまハしたり首のいたむほど天をながめたりうなつたり笑つたりして居るから皆さんハ何をなさるのかと問ふと今夜ハ名月を吟ずる風流の遊でゲスと意張る人がありましたそれならバ好む道ですから席の御端に入らせて下さいと云つて願つたから見ればむくつけき老人ジヤシ誰が之を芭蕉翁と思ふぞや半分ハ輕蔑し乍らソレジヤア一句うかませ玉へと云ふから翁ハたからのに、三日月の、、、とまづ初め五文字をよみ上ましたソウスルトこれ／＼今夜は八月の十五夜ジヤに三日月とハなんだいなどくつ／＼笑ふもあつたが翁は耳にもかけず、ころよりまちし今夜かな、、、、、、と下の句をつけました皆さんきかつシヤレ三日月ハころよりまちし今夜かなジヤイ、カ三日月の比よりまちし今夜かなジヤ何んと名吟であらうがなこんな名吟でもたゞ初ばかり聽てハ可笑ひものジヤ由てな皆さんよく／＼心得てなんでも人の話をきくときハ話とつれだちて歩るかなければいけませんゾ一町も二町も先つ走りをしてハソレコソ話が何處へか行て仕舞てついにハ全く見失ものジヤ何でもつれ立つてあるいて人の言ふ通と徳利ときいてよつく呑込なければなりません（大喝采）

○女學時論の大槪

學藝雜誌第五十八號にハ外山正一氏ハ（女子敎育を論じ併て耶蘇敎擴張の法を說く）の續きあり之ハ前号既に批評し且ツ本誌にも其承諾をうけて掲ぐるに付き別に更めて言ハず

日本農會報告第六十号に佐々木久和氏の（製茶の業を婦女子に讓るべし）あり女をして籠焙爐を用ひ製茶せしめバ入費省けて利益ありとの事を實驗のまゝ述べられたるなり

東京輿論新誌第二百四十九號にハ波多野傳四郞氏の（一夫一婦ハ人の大倫なり）の第四あり夫婦ハ一種の朋友なりと云つて男女の交際することをすゝめたるものなり

朝野新聞七月廿九日の（財産分配論）中には女權の伸張には女に財產を與ふることを第一とす而して女に財產を與ふるにハ財產分配法を改め長子男子にのみ身代を遺さずして女子にも之を分け與ふべしと論じたり

時事新報は七月廿八日に（離婚の弊害）と題し相愛の自由と云

ふとは、論に於てあれども中々實際に行ふべきものにあらず夫婦は一生相和して鴛鴦の如くなるべきに我日本には一村の三十二軒嫁を迎れバ十二軒は妻を追出すほどの統計あるは甚だ苦々しきことなりと論ず。廿九日には（離婚の原因）は全く男女の交際なく娶るものも嫁するものも婚姻の當夜初て面識するなどの有樣なるが故に由るされバ婚後睦じきは寧ろ不思議にて風波を生ずるは當然なりと論じ。三十日には（離婚を防ぐの法は男女の交際に在り）と題し男女もし交際の末相知り相慕ひて結婚せしならバ前に云ふ如き不都合少く又多少の不都合ありたればとて自ら擇みたる夫婦なればこそ勘弁するとも強くさなくとも交際社會の評判を荷ひて相結ばりしことゆえ之を解き離つもその社會に對しても面目なく自然辛棒し合ひて離婚の風を絶つに至るべしと論せり」此れ實に至當の議論ならんが之にて全く離婚を絶ち得るに至るの望はある可らず大凡そ結婚の事、夫婦情交の事みな宗教の感化を經るに非ざれバ到底純粹清潔の點に達す可らず此頃のナイテインスセンチウリーなどを見るに女子に政權を與ふるや否やの議論亦た沸騰し初めし如し次号に餘白あらばフオーセツト婦人が此件に對する論文等を掲ぐべし

● 論說

○女子の教育を論じ併せて耶蘇擴張の法を說く

外山正一

人の賢愚を知らむと欲する者は何よりも先づ其の母の賢愚を問ふべし。國の開化を進めむと圖る者は宜しく先づ其の國の婦人を改良することを勉めざるべからず。今日我が邦に於て人の注意を要することは擧げて數ふべからずと雖も蓋し婦人の教育ほど之を要する者は他にも有らざるならむ。我が邦將來の命脈も我が邦將來の婦人の强弱賢愚に繫るものと言はざるを得ず。强健にして英敏なる母の胎内にやどり强健にして英敏なる母は手に育ちたる者にあらずむバ稍〻成長したる後に如何ほど善良なる教育を授くればとて決して善き人物には成り能はざるならむ　我が邦にても追々教育の大切なるを曉り。政府にて大學中學等を立てらるれバ民間に於ても何協會何專門學校と唱へて種々の高等學校を立つる樣に成りたるは喜バしきことの限りながら其の中に憂ふべきは此等高等學校は概ね皆な男子の爲めに立てられたるものにして。女子の爲めに立てられたるものは僅に一二の微々たるもの有るのみに止ることと是れなり。男子の高等教育が必要ならバ女子にも高

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

等教育は必要なり。今日ハ斯の如く女子の教育を投げ遣りになし置く時勢なるが故に。女子ハ高等教育は如何なるものたるべきかと云ふ問題に關して世人の懐ける考への如きも至ッて漠然極まるものなり。然れども女子の高等教育の必要なることを説くものハ如何様のものたるべきか豫じめ定まりたる考へを懐かざるべからず。余輩不肖なれども聊か其の考なきにあらず。特り其の考へ有るのミならず其の教育を我が邦の女子に授くるの方法に關しても亦其の説なきにあらず。讀者諸君靜かに余輩の説く所を聽られよ。

教育ハ素より當時の時勢に適したるものならざるべからず。武家の世の教育ハ武家の世に相應し文明の世の教育は文明の世に相應したるものたらざるべからず。女子に薙刀の使ひ様を習ハしたり自害の仕様を教へたり。家に在りてハ親に從ひ嫁してハ夫に從ひ老てハ子に從ふべきものなりなどゝ。氣の毒千万なる覺悟を爲さしむる教育の如きも封建時代の婦人にハ素より適當したる教育にてありしならむ。いつ敵から攻めらるゝかも知れず。何時君辱められて臣死さねバならぬかも知れぬ如き時代に在りても女子と雖も薙刀の使ひ様位ゐハ之を知らねバならず。潔く最愛の子の喉元を懐劍にてつらぬき其の身も共に刄に伏そなど云ふ覺悟と常々爲さしめ置くも素より必要なることにてあらむ。さりながら文明の世にハ薙刀三昧や懐劍騒ぎの教育は毛頭入らざることなれバ。かゝることをバ文明の御代の女子に教ゆるハ素より無用のことにぞ有る。されバ日本帝國も封建制度が廢せられ目出たく海内一統して天下泰平の御代とあり。文明かぜに化せられて一から十まで舊來の野蠻の風を脱却し開化の風に改る勢ひなれバ。教育の如きも二十年以來其の面目を更ためたること實に著しきことにして。女子の教育の如きも亦大いに改良したりと言ハざるべからず。さりながら他の事物と共に女子の教育ハ改良するにハしたれども其の改良の度は余輩に決して満足を與ふる能はざるなり。讀み書きを習ハしたり理化學を學ばすることのミを以て教育ありと思ふハ大いなる誤りなり。蓋し人の教育の多分にして且最も大切なるものも教場にて授業時間中に得るものよりハ却ッて其の授業外に得る所れものならむ。教授の授業外の教育とハ如何なるものか。生るゝと直ぐ父母或は乳母より受くる教育。稍〻成長して子供仲間より得る教育。學校に往ても學友より得るの教育教師の品行動作を見て得る所の教育。社會に出でゝ事を執るに當つては種々の人物

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

に接し種々の事物れ觸に種々の經驗によつて得る教育則ち是れなり。此の類の教育ハ學校教育を受くる者も之を受けざる者も共に受けざるべからざるものなり。如何ほど善良なる學校教育を受くるも此等の教育が善からぬものあらむには折角受けたる學校教育も水の泡に屬せることと做しとせぞ。何人を論せず某社會に生れ其の社會中に成長したる者ハ。よしや學校教育とてハ左のミ受けしことも無き者と雖もよく其の社會上の地位を保ち居ることを得るハ何によるか。全く學校外に受けたる教育の徳によるなり。開化國の人は學校教育とてハ左のミ受けしこと無き者と雖も開化人の資格を存し。亞米利加インヂアンの如きは之を開化國の大學校に入れて高等教育を授くるも到底野蠻人の資格を脱する能ハざるものは。蓋し遺傳の性質の爲めによること少なからざるにハ違ひなしと雖も。學校教育の影響僅にして幼年の時よりインヂアン社會中に於て自然に受け得たる教育の勢力の強きによることも亦少なからざるならむ。インヂアンハ到底インヂアンたるにとハ免かれ難きことながら。之をして最も多く他のインヂアンと進ハしめ開化人に最も近からしめむと欲せバ。幼少の中より之を開化人中に生ひ立たしめ常に開化人の人情風俗に染まらしむるより外に手段ハあらざるならむ。今の日本人の中にて最も西洋風に化し最も開化人の資格を具へたる者は。必しも專門學科に熟達したる者にはあらぞ。專門學科ハ何も學び得たるものなきも幼年の頃より開化國に渡り始終開明の空氣を吸ひ開化人の人情風俗に化せられながら成人したるものにぞある。專門學科は誰よりも學得たる者と雖も開化國に留まりしこと僅に二三年に過ぎざりしのミならぞ。其の二三年の間も開化人との交際などには少しも意を用ひしことも無く只々一心に專門學科に從事せし者の如きハ其の專門學科ハ萬々結構なるも其の人柄たり思想たり多くは純然たる日本人に過ぎざるならむ。然れども海外に留學せる者ハイヤでもオウでも多少開化人と交際をせねバならざるが故に如何なる頑固物と雖も幾分か開化人になりて歸り來らざるハ稀なり。假令僅の間と雖も開明國に留學し開化人と交はりたる者ハ開化人の資格を具ふること曾て開化人に接したること無き者に比ぶれバ幾分か優らざるものハ稀ならむ。然り而して國として眞に開明の地位を得せしめむ爲めにハ各種の專門學に長じたる者の國に多く出來むことも素より缺くべからざることなきぞもまた同様缺くべからざるは開化人と情を同うし開化人と思想を

同うする如き者の多く國に出來むことと是れなり。學校教育が盛にありたればとて專門家が多くなりたればとて其れまて一概に國が開けた文明になッたなどと誇る譯には決してゆかざるなり。不充分ながらも我が邦が今日の如く開明諸國と人交はりの眞似ごとにても出來る樣になりたるは全く幾分か西洋の事情に通じ西洋人の思想を以て物事を考へ得ることの出來る如きものが政府にも民間にも追々多くなりたるが爲めなり。即ち西洋人の喜ぶ所を喜び西洋人の哀む所と哀み西洋人の怒る所を怒り西洋人の耻る所と耻る如きものゝ幾分か我が邦に出來たるが爲めなり。而してかゝるヤカラが政府にも民間にも幾分か出來たるは維新以來年々歳々數多の日本人が或は留學と號し或は視察と唱へ或は大使のお供と出かけ或は公使館の書記生となり或は博覽會の出張員となり或は取調べ或は研究と種々雜多な名を付けて開明國に渡り開明人と交はり開明の空氣を吸ひ開明の人情に化せられて歸り來れる者　日に月に絕間なきが爲めなり。國の進歩の爲めには上等社會の者の洋行は實に必要のことなり。洋行するにあらずんば眞に西洋風儀に化せられむことは甚だ難し。然れども洋行の必要なるは特り男子のみに限らず女子にも亦同じ。特り男子が開明の風儀に化するのみならず女子も亦之と同樣に開明の風儀に化するにあらずんば其の邦は決して開明の域に達すること能はざるなり。然るに今の有樣にては男子にては開明人の風に化せらるゝ者日に多きを加ふれども女子に至りては西洋風儀に化せらるゝ者實に僅々にすぎず。これ一は男子の學校教育に比ぶれば女子の學校教育は大に忽かせにせられたると又一は女子には開明國に渡り久しく開明人に接して開明風に染る者のゝ至ッて少なきが故なり。然るに學校教育を改良するは易きことなれども婦人をして男子の如く多く洋行せしめむことは到底出來がたきことなるべし。さりながら我が邦の婦人をして親しく開明人に接せしむるにあらずんば到底我が邦の進歩は充分なること能はざるならむ。されば婦人は少なくとも男子に負けざる開明人と爲さむと欲せば一方に於ては女子の高等教育を改良し且盛んになすことを務め又た一方に於ては我が邦の婦人をして親しく開明人と接せしむることを得せしむるの方法を考へざるべからざるなり。

世間にては女子の教育と云へば讀み書き算術、理化、博物、唱歌、舞踏、裁縫、圖畵等の學科を授くるに止まる如く思ふ者往々有りと雖も斯の如き學科のみにては女子の教育は極めて不完

全ならむ。女子の教育にして家事經濟と家內衛生の二科を缺きたるものハ決して完全なる教育とハ言ふべからざるなり。この二科ハ何れの國の婦人にも缺くべからざるものなれども殊に我が邦今日の婦人に於て然りとす。而して余の所謂る家事經濟たり家內衛生たり西洋主義の家事經濟、家內衛生の事にして日本主義の家事經濟家內衛生の謂にはあらざるなり。我が邦の婦人が西洋流の家事經濟と家內衛生とに通ぜむとハ今日に於て最も必要なり。今日我が邦の男子にハ西洋風のくらし方を稽ひ居る者漸く多しと雖も斷然之に變へる者の少なきハ多くハ婦人が西洋風のくらし方を知らざるによる。例へバ日本流の食事を廢して西洋風の食事に改めむには高き給料の料理人を雇ひ何もかも之に任せ置かねバならぬ。又子供に洋服を着せむと欲せバかぶり物から足袋に至るまで之を總て商賣人の手に任せ置かねバならぬと言ふ如き樣にても我が邦の如き貧乏國ハ西洋流の衣食住の廣く行はれむことハ到底出來ざるならむ。西洋風の衣食を廣く行はしむる爲めにハ牛肉を買ッても骨ハ何の役に立ち。アブラミは何の用になると少しもムダの無き樣に爲すことを知り。親父の古洋服をきりつめて子供の股引ヂャッケットを拵へることを心得居る婦人がよく之を心得居るにあらざればイクラ男が衛生學に明るきも到底コレラの豫防も熱病の防ぎも充分に出來ぬ。何程男が西洋風の子供の仕立方に感服しても女子が其の道に暗くしてハ決して西洋風に子を育てることは出來ざるならむ。將來我が邦の男子ハ婦人に此の二科の必要なるを感ずること愈々多くなるならむ。婦人が此の二科を心得居るにあらざれバ西洋風のくらし方を爲さむこと到底出來がたきことあらむ。さりながら家事經濟の如き家內衛生の如きハ親しく西洋の婦人に就きて之を學ぶにあらざれバ決して學び得らるべき事柄にあらぬ。されバ此の事に關しても我が邦の婦人が西洋の婦人に親しく接するの必要なるハ明かなり（未完）

○佳傳

○ナイチンゲールの傳（一）

炎熱やくが如きの樓上に病痛を熱し寒威つんざく計りの窓下に恐苦の念を冷やし世の中にれひとりのやう思ハれて賴むべき人のあまりに慕ハれ過去し方まだ來ぬさきなんど連々念頭

常ならん此時にあたりては人の親切を感ずること一層にして人の冷やかなるを痛むことも亦甚しされば温和優切の婦女子の看病して初めて彼の心を慰め得べし快活勇壯の男子は遂に此事に用なきこと古より看病は女に限るとの格言あるに由て知るべし而して病人を醫やすには一に看病二に藥と云ふ世上に尤も不幸なる病ひの人を醫やすには看病の事藥よりも倚ほ大切にて然かも看病は女に限ると云ふ故に婦女子の世の爲に力を以くし同胞の爲に誠をあらはすは實に此の事と執るの人となるより宜しきはあらざるべし

フローレンス、ナイチンゲール(Florence Nightingale)は所云る看病婦なるものゝ女王なりもと英國のフローレンスに住まふセウカ氏の娘にして世の中を治しめす一國の女王ビクトリア陛下と同年(千八百十九年)に生れたり父のセウアは教育もあり智慧もすぐれたる人なりしかバナイチンゲールをよく教え導き讀書學文の道にはかくる所なからせたり去ればナイチンゲールはかく羅甸學數學に上達し女の心得べき事々はみな覺えつくし佛語日耳曼語伊太利語等をも自由に話し得て洋琴をかなづることも美術上の趣味も科學上の智識も皆な一樣に兼ね備えたり。幼より病人を介抱することを好み壯健ならざるときこゆるものには先づあはれみの心を起したりされど其交る所は上流社會及紳士貴女なれども自ら寒村僻邑をめぐりありき病めるものあれば手を下して看病介抱し茲にはスープを送りかしこにはフランネルを送り又別のところには膏藥をめぐむなどたゞ暇あればかゝることをもて其つとめとなし加之そのひまあれば父の書庫より看病の事にかゝはる文どもを取出して一意に其學理を學びたり(未完)

○太閤秀吉の奥方

秀吉の奥方おまんの方と云へるにつきてはいろ〳〵に言ひ傳ふる話あれど皆女の敵となるやう思はるゝなり或は云く前田犬千代は當世の美男子にして才智すぐれあつぱれの武士よと人々みなたうとみたるがおまんを貰ひうけたきやう其親なる人に申込みたるにおまん何の故ありてか斯る好緣をそげもなう斷はたり親はたやすう承がふべしと思ひしにかくとせしことなれば今更とてはかく〳〵しき答も得せざりし比藤吉郎と云へるこれまで理發のきこえ高き足輕に此由をかたりければいと易きことなりと受入て自ら犬千代のもとにゆき足下强て之を求め玉ふ可らず實はやつがれ早くより言ひかはし居候ぞと云ふ藤吉郎は猿面の不男にて身分も低き下郎なれば何條かゝる

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

とおらん必竟たゞ斷りの辭なきよりぞと推しぬればれ犬千代の言やう左らば何とて懇望し申さん友垣まよよしみに拙者なかうどして芽出度ゑにしを結ばせ參せんと云ふ謀のうらとばかゝれてさすがの藤吉郎も迷惑に思ひながら否まれでハとハ言ひにくき有樣となり歸りてその親なる人に物語り親なる人おまんに打かたらひたるよ此度ハ亦た意外に出でておまんも喜んで藤吉郎のかたよ行かんと云ひたりき斯て犬千代も親も藤吉郎の事みな不意に出たれどもおまんの眼中よく一生の身を托そべき所を擇みて天下麻の如く亂れたる世の中に四海波しづかの禮をつゝがなく終りけり其夜のありさまいうこぎ植たる足輕部屋のちり打はらひて僅かに三人四人の席をもうけ藁を折り席をひきて切ては板の間よまさるとほこり割たるうはらけを足二本の三方に危座し口のうゝたる貧乏徳利ハ結句なみくとつぎよのりゝり燭くらくして屋せまく客いやしんま親安んぜぞ常夕たれか知らん後日の豐太閤たゞうく之を知るものハ則ちおまんなり此より藤吉郎しきりに立身して威を海外に轟かずに至るること必竟おまんの方の内助多きによると云へり凡ろ夫を擇むものハ當に如此なるべし

雨窓閒話　誠たるハちと異れり他日再ひ傳すべし

○梅香女史の傳　第十三

絲竹音を發する時
心情思れ微を動ぞ

洋婦人に別れたる青山梅ハ遮りよ考へつゞけて歸心あくされば疾く活潑に遊步するにもあら老頭ともたげてハ木梢と見るも燕鳥ハおもしろふ飛かよふに心つかぜ遙に眼をすゆるハ忍ばずの池を臨むか數行の過雁もろの思をひく能もぞたゞ何とならなかめ乍ら物案ずるやうに見へけり

あゝ彼方の仰せありし如くならば是迄の考ハ全く違ひたりコレハ御免くださいツイ心付ませんで麁相いたしました御みあしは痛みハしませんのまことに、、、

ナルホドさう云ふ理屈となりませうか竊かに心に考へれも尤もの樣に思ハるゝが、、、、イヤ然し、、、、

中村君チヨツチヨツト見玉へ大變よ考へる樣ジヤないか

ア、矢張りさうでせう人間此世にあつて何が最大の幸福でせうゞ名譽も地位も皆な高尚の樂ジヤありません相思相愛も純粹なるは少イシ女を思ふ男子にも父を除く外眞正の愛あるハなし男子を思ふ女にも母の外ハ偶ならぬハありませまい考ふれば此世ほどさみしひ所はあり仰せんかドウシテ人間が此樣の世界につくられたでせう、然し彼方の仰しや

Digitized by Google　　Original from CORNELL UNIVERSITY

る様に吾等を慈しみ愛し玉ふ神が此世を治しめして吾等を子として守り玉ふと思へば此程樂しく又た平和なることはありませんもし世の中に神が在つて其神が斯く宇宙を配理し玉ふとすれば其全智全能は驚くべく私共が身も其下にたちて蒼海の一粟と云ふほどにも尚ほ足りますまい

かゝる考を新に得たる梅の心にも例の如く松本老と其是非を論じあひたく急にいかに心付て足をはやめ根岸の方へとおもむきぬ

此時日はすでにくれて新月の光かそかに銀の色をやどり秋風そよふく木木の青葉みなすが〱しくありけんそゞろにありきて松本の住の邊に至れ

はかきならせ琴の音は玲瓏のひゞきに伴ひて秋氣先づゆるやかに震動せる心地したり思はず立ち止まりてきつと眺むれバ松本が家の二階にうつろへる二人の影はかのきよげなる聲を送り出す者と見えたりハツト思ふ心に身はすくみて進みもせずまた退きもせず目をあがんとしてまた耳を欹て之をきくよ音色のきゝとれざるとくちをしとてやう〳〵あゆみ出し屛のかたはらに立ちそひてとゞろく胸をしづむれバ

さがのあたりの秋のころ千ぐさの花もさま〴〵にむしのうらみとふかきよに

松本さんは大恐よい聲になられたとそれにしてもあの笛はなくねにつれて仲國がれうの御馬たまはりてとのゐすがたのふぢバかま

あゝ昔しおぼゆる笛竹にあはすしらべはまがひなきかの御方とのあそびなるか

そうふれんがしやう歌はひよくのつばさの雲井をこひ盤しき調のしらべは松のれんりのえだにかよふ

テモまあよく合ひまそことあすれは大原にうつされんとの怨ある昔のしらべと事かはり秀才佳人清潔なるかゝる樂の合奏はマアどれほどにあるやらん

よはみ手ならそつまごとのいはこすおもひせきかねてなみだよろごをかしはバら人目もいかゞあやめがた

イヤ〳〵然さこゝのとか成程これも樂しからんさらバとて世に相愛そるは二人に限り三人四人の双思もなからん已が親友は松本さんかゝる秀才の知己となるはこれまた私等の幸榮ならんに

むかしにかへるもゝしきやむかしにかへるもゝしきや千代をちぎりし松のことのは

をはりましたそうな一寸は入てあひませうか、、、イヤよしてかへりませう、、、だがちよつと、、、、矢張りあはんほうがよう御座りませう、、、、

此時眉の如き新月は雲の墨きに畫がかれて色自らかゞやきあはれに細き光を發して梅のおもひと知ると見えたり

たえ〴〵に消る斗の若三日なつき還ふ雲を去んとぞ思ふ

たに〳〵に消ゆる斗の三日月もいつかはみつる時のありけり

●隙言

本号には餘白なきに付き寄書の一欄を除く
但し前号發兌以來上總螢雪女學館の久保の詩、大坂巽く女子の歌、岐阜縣笠松管見生の女子教育策、淡路洲本成田賢雄氏の婚姻風俗集及詩、東京岡村たかえ子の板谷子履歴、など悉く落手仕候。何れも過日に揭ぐべし

●新報

○女の演説　吾人曾て述べたる如く女子が公衆に對して演説するは尤も掛念すべきこと多し先づ事の宗教談に關するか又は事情演べざるを得ざるの勢あるか斯れ如き時にも慨然として公衆に對し演説するを決して厭慮すべきに非ず然らざれば先づ婦女のみを集めて己が意見を靜かに訴ふるか又は其間につきて私に奔走遊説すべし事のなきにとざしく公衆を集め男兒紳士の前に立ちて無要の弁を費すは實に嫌惡すべきことなりレビット夫人の如き米國最開化の地に生長して學藝品行有鬚にまさるありて而も止を得ざるの事情に立ち世界に遊説する者と雖も開演の初には先づ一女子の身を以て演説するの所以を弁じ玉へり西洋婦人の優温なる淑徳を尊び注意と細かきに至らすと感佩すべき至なり然るに近來我國の女子にして男子と共に演壇に登り切要にもあらず明論にもあらざることを演述す（寧ろ草稿を讀上ぐ）るのみか傍聽料をまで取り玉ふと何如の心得なるや此等の女子は名もなき人々なれども實際女權の伸びざるを慷慨し止を得ずして演壇に登ると云ひ玉ふ乎何んぞ先づ同胞姉妹を集めて之を訴へざる若亦た先づ男子の覺悟も乞はざれば能はずとの意なるか左程の慷慨あらば高價の傍聽料をとらず無料にて演説し玉ふ方々の意見をきくの人多かるべし故に人ありて之れ射利の爲なりと云ふとも弁ずべき辭柄なきが如し吾人は今ま女風を改良するとに鋭意熱心すると共に女子の固有すべき優温の淑徳を失はせざらんことを切望するものあるが故に如此き景況を見るときは尤も慨歎の思に禁はざるなり

因に云ふ。去月廿五日厚生館にて中川雪枝子なる一女子田島象二伊藤洋二郎氏等と共に演説會を開かる同日は中川子が發起人の由なるが演壇に登るとき腰帶の上に縮緬の卷帶して書き付けたる日本婦人談なるものを讀上げ途中にて余り長くなればとて下られぬ聽衆も見料を拂ふ由と入口にて初て承知し多く歸り去りたる故か館内には僅に六七十名ありと傍聽したる人より報し越しぬ

○卒業式行啓　昨二十日華族女學校にて第一學期大試業卒業證書及修業證書授與式を執行せしに付皇后宮には該校へ臨まれたり其御模樣を承はるに同日午前七時女學校諸職員同八時生徒一同參集し同時四十分皇后宮には高倉典侍御陪乘、伊藤夫人、香川皇后宮大夫、三宮司亮、及女官等供奉にて御臨校便殿へ着御あらせらる此時諸員及生徒一同門外に奉迎同九

時式場參列の諸員及生徒等着席し同時十分皇后宮式場へ臨ませらる此時奏樂次で學監下田歌子ハ小學全科卒業生大野繁子十八名及中小學諸級及第生へ各證書授與し優等生徒の爲に褒詞を述べ石山加壽子外三名へ賞品を與へ續て小學全科卒業生及中小學諸級及第生の爲に祝辭を述べ小學全科卒業生總代大野繁、中小學諸級及第生總代野村久子ハ答辭を述ぶ次に教授色川國士の演說、工藤一記の學事報告等ありて式を畢る此間奏樂ありて皇后宮にハ新築教場御通覽同所にて琴教師及同生徒二名の新曲(月の桂)を聞食され再び便殿に於て御休憩の上午前十一時過還御あらせらる諸員及生徒の奉送する別の如し當日女學校生徒一同へ御菓子を賜ゐる又式場參列及有式參觀の爲め參校したるハ三條内大臣、松方、谷の兩夫人、宮内省高等官、其他生徒の親戚等百數十人式畢て式場參列員の立食あり親戚參觀人へハ茶菓を饗せり

○產婆會　去廿八日午后四時より麹町元園女學校に於て大日本產婆會の第二會を開かれ會長山崎元脩先生幹事村上二東氏須藤末吉氏などの演說あり勝生會員數名產婆の出席も初會より多く吾妻社よりは數名出張し飲もの諸事に注意し中々の盛會にてありし(岡村多可榮子、報)

○警視黴毒病院　の入院患者ハ先月よりの繰越の分百八十四名にして昨二十二日の調査によれば現在の入院患者ハ吉原七十八名根津三十八名品川十九名新宿十三名千住九名板橋一人總計百五十八名なりと云ふ尤もいたむべきことと云ふべし

○高等女學校　ハ近々竹橋内の体操傳習所内に移轉して更に規簿を大にし且つ二三名の洋婦人を聘して女教師とし益々生徒を募らるゝ由同校ハ世人の尤も注目する所なれば何卒教育感化ともに完全且つ清潔となるやう希望にたえぞ

○女子職業　上州前橋の士族ハ養蚕製糸の業とし婦女子も糸の賃繰を爲して多少の錢をとるゆゑ他縣の士族に比すれバ多少ゆたかなり此の繰賃ハ昨年迄一升二錢五厘位なりしに今年ハ三錢五厘に引上たり。上州富岡の製糸所には工女三百餘ほとあり同所買入の繭は今年五千石なり。甲府にハ四十餘箇處の製糸場あり大なるは工女三四百人を使ひ少きも四五十人を下らぞ同處工女の賃銀ハ昨年迄ハ繭一升何錢と定め其取高に應じて給したる趣なれとも取高を増さんとて兎角糸質の粗惡に流れやすきもえ本年ハ一般に改正し一日に二十二錢五厘より六錢迄十數級に分ち其熟練に應じて給ゐる由なり就業時間ハ一日、十三時間にして日々數回各工女の製糸を試驗其結果

によりて毎月三回前述する如く賃銀を高下すと云ふ而して平均賃銀一日十八九錢にして一日製する所の糸平均四十五匁位なり尤も昨年迄ハ前記の次第ゆゑ五十匁平均なりしとぞ云々

時事新報中の諸報告を取集めて記す

○女子職工學校　工科大學教授服部一三氏外數名の發起にて今度女子職工學校を設け婦女に相應の工業を修めしむべき計畫にて神田錦町なる元銀行講習所跡の建物を借受來る九月頃より生徒を募集すべき都合なりと（八月二日時事新報）

○足利織物取引高　足利工商會の報告によれば去る六月中足利市場の取引高ハ各種の織物合せて二十五万七千八百十二反にして此金額十九万八千二百零三圓餘ありしと云ふ

○軍人結婚法　の意見陸軍々人の結婚法ハ官位によりて保證金に多寡ある成規なるが士官中には此の資金に差支ふるより同居籍にて娶迎するあり又た種々の名目を設けて婚姻する抔到底理事者の趣意とハ齟齬するに至り後日之が爲に多少の弊害を生ずべきやも測られず左ありてハ折角の結婚法も結句有害無益のものとなるべくやとて昨今此弊を矯んとよりく評議する人あり又妻子を携帶せる士官以上の人々は家計保證の名を以て月俸中の幾分を主務官にて預置く事になるべしとも云へり（七月卅一日日々新聞）

○教部彙報　橫濱女子傳道學校のバンペテン女教師及稻垣そえ女は羽前東根敎會に至り說教さる。大坂梅花女學校のガードナー女教師ハ伊藤てつ女と共に伊勢の津に傳道さる。伊勢の山田にハ四月以來大坂女子傳道會社より瀧川花女來りて傳導さる

○勉强と健康の關係　米國にてハ婦女の敎育充分に行ハれ苟も口を糊するの餘力ある者ハ皆な中學校セミナリー等の學科を踏まざるハなく稍々資產を有する者の兒女に至てハ大學校に入りて男子と同く專門學を修むる者頗る多く學士の稱號を帶ぶる者さへ少なからざるハ流石に文明國と誇唱する程ありて只管敬服する所なり然るに此の事に關し久しく結で解けざる一の宿疑起り屢々之れを世上に論ずる者あれど未だ判然たる決理を得ること能ハざりき先づ其の主眼とする所ハ二點にありて一は女子をして男子同樣に大學に入らしめ數年の歲月を科學の爲めに勞せしめバ天質の軟弱なる能く是に耐ゆる能ハず遂には其の健康を害すべし二に斯る高尙なる教育ハ他日の渡世に不適當なるべしと云ふにありしが近日米國マサチユウセッツ州統計院力役部長ライム氏ハ統計學の力に賴り此の

疑題を論明し始めて世人の心を安ぜしめたり氏の研究する處に依れバ高尙なる教育を女子に與ふるも毫も身体に惡果を與へざるのみならず却て他年有用の職務を撰て擔ハしめるに好き準備となるべしとて種々統計より得し事實を一部の小冊子として江湖に頒ちたり今一二必要なる條項を譯出すれバ氏ハ米國中女子の現在入學してある十二大學校に照會し得たる報告に基づき幼時の狀況。一箇人の健康。家內の健康。大學校に於ける狀況。卒業者の死亡等一區別を立しが其中に左の如き事實を見るを得たり

總數の六十二割ハ尋常に勉強し九割は是より少しく優る勉強を爲し二十九割ハ非常に勉強せり而して社會の雜事を絕て關せざる者半數に及べども火宅の激紛(即舞踏會夜會等の類)にハ全數を擧て交ることと實に稀有なり」身体强壯にして入學せし者其後常に勉強を過度にせしにも係らず九十二割强ハ卒業の後に至るまで更に健康の變化を示すなし又唯學事にのみ苦役せし者ハ健康の差異を來すなく勉強ハ通常なるも別に職業に苦役せし者ハ十割の衰弱あり業、學兩ながら苦役せし者ハ十五割の衰弱を見る是に反し兩者共苦役と云ふ程にあらざりし者ハ在學中却て十割健康の增加をなせり又曰く如何に敏慧の女子たりとも幼年に大學に入り苦學に服するハ身体の爲になすまじきこととなり總じて大學に入るの準備中にある間屋外に於て十分の運動を取るを以て習慣とすべし是と同時に健康の點に關係なけれど面白き事實なれバ合せ記す

大學卒業の女子ハ大抵女教師となり殘餘ハ家事若くハ何か角立ちし業務を取るなり然して此卒業者の年齡ハ平均二十八年半にして人の妻となり家事を理むるにも拔目なき秋なれど結婚する者甚少なく其ハ四分の一に過ぎずと云ふ這ハ專ら多年教育習慣の然らしむる所より自然孤獨に慣れ夫を撰ぶに至るも思案深く嫌ひ勝になるより遂に緣談を調ふとなくして止む者多きと今一ツ教師と爲り自ら口を糊するハ世上一般の女子と異なり獨立の愉快あるを喜ぶに原因すと云ふ兎に角賢烈たる阿母を養成するハ國に俊傑を出すの基にして即ち女子の智愚ハ文明の程度を高下せしむべければ我邦の如き女子の勸學に勇なる此米國人に恥ぢざる樣世の父兄たらん人勸誘せられたきことなり(七月卅日日々新聞)

●善治儀一昨三日箱根に參る今月下旬迄にハ歸京可仕候

今回の雜誌印刷の都合によりて發兌の期日をあやまり候事社員一同汗面にたへず向後ハ一層の注意と勉勵を以て厚志眷かさらんとを深く罪を謝し併せて前後ます〳〵愛讀あらん事を望むと云ふ

社員敬白

○警察令第十一號

明治九年一月警視廳第二十三號達密賣淫罰則左ノ通改定ス

明治十九年七月三十一日　警視總監三島通庸

密賣淫罰則

第一條　密賣淫又ハ其媒合容止ヲ爲シタル者ハ一圓以上二十圓以下ノ過料又ハ五日以上四月以下ノ懲戒ニ處ス○第二條　密賣淫ノ寓主ヲ爲シタル者ハ二圓以上三十圓以下ノ過料又ハ十日以上六月以下ノ懲戒ニ處ス○第三條　祖父母父母ノ指令ニ依リ對則ヲ犯シタル者ハ罰ヲ其指令者ニ科ス○第四條　過料ハ言渡ノ日ヨリ十日內ニ納完セシム若シ限內ニ納完スルコト能ハサル者ハ二十五錢ヲ一日ニ折算シテ懲戒ニ換フ○第五條

過料金ノ全額ヲ納メストモ雖モ其幾分ヲ納メタル時ハ前條ノ例ニ依リ折算シテ剩ル日數ヲ懲戒ニ換フ○第六條　懲戒ニ換ヘタル者ト雖モ限內過料ヲ納メタル時ハ其經過シタル日數ヲ扣除シテ懲戒ヲ免ス親屬其他ノ者代テ納メタル時亦同シ○第七條　懲戒ニ處シタル者ハ懲戒場ニ入レ相當ノ役ニ服セシム○第八條　懲戒ノ期限ハ其言渡ノ日ヨリ起算シ放免ノ日ハ之ヲ算入セス

○警察令第十二號

自今左ニ列記スル營業者ニ於テ使用スル婦女ヲ雇入又ハ解雇シタルトキハ（通勤日雇等ニ係ルハ其約束及ヒ解雇ノトキ）書式ニ照シ三日以內ニ所轄警察署ニ屆出ヘシ但現今雇入ノ分ハ來ル八月十五日迄ニ屆出ヘシ此規則ヲ犯シタル者ハ一日以上三日以下ノ拘留又ハ二十錢以上一圓二十五錢以下ノ科料ニ處ス

明治十九年七月三十一日　警視總監三島通庸

一　楊弓店、大弓半弓場、投扇競場、室內射的場、球戲場　二、遊憩所（茶店、麥湯店、氷水店）湯屋　三、待合茶屋、船宿、引手茶屋、四　料理店、飲食店　五　旅人宿、下宿屋、雇人請宿

（書式畧す）

○警察令第十一號參照

明治九年警視廳第二十三號達賣淫罰則

第一條　凡ソ警視官ノ認許ヲ得スシテ賣淫ヲ爲シ及ヒ媒合容止スル者初犯ハ十圓以內再犯以上ハ二十圓以內窩主初犯ハ十五圓以內再犯以上ハ三十圓以內ノ過料ヲ科ス但父母等ノ指令ヲナス者ハ其罰ヲ指令者ニ科ス○第二條　若シ無力ニシテ過料ヲ徵收スヘカラサル賣淫者及ヒ媒合容止初犯ハ二ケ月半以內再犯以上ハ五ケ月以內窩主初犯ハ三ケ月以內再犯以上ハ六ケ月以內ノ苦使ニ處ス

廣告

女生徒募集廣告

當校生徒欠員に付十名限り募集候間十才以上にして志願の方ハ來る八月二十五日迄に申込まれ

但秋期入學試驗ハ來る九月一日二日を以て執行す規則書一覽御望の方へハ回送すべし

横濱山手百七十八番　フェリス英和女學校

●本校前さに大に校舍を增築したるも猶未た來學實女の望に應そる能はさるに依て本年暑中休暇を機とし復た教場寄宿舍を增築し來九月十日より更に寄宿生百名通學生五十名入學を許す寄宿生中其望に依り西洋室內の整理衣服飲食製裁賓客の待遇其外西洋風習の實務を修業せしむ但規則書御望の方は郵税二錢御遣しあるべし

麻布東鳥居坂町　東洋英和女學校

東京大學教授櫻井省吾君閲　伊藤重尚君譯

西洋東髮秘傳 附化粧秘傳　改正定價四十錢

右は發兌以來大に世間の好評を得て充分に販賣いたし候處尚東髮賛成諸君の便利を計り今般一千部を限り前記の低價にて賣捌候間陸續御購讀を乞ふ

賣捌所　東京神田　團々社支店

基督教新聞　第百五十七号　七月廿八日出　●一部三錢　毎週發兌

目次　靈魂を獲るところの者は智者なり　敎報二十六件●雜錄○名與の說、サアムヂヨンス師畧傳●雜報●英文敎報

六合雜誌　第六十七号　七月卅一日　發兌●一部郵税共十錢●

目次●ウイクトルヒウゴ氏の宗敎思想○宗敎的眞理の性質利己主義の道德論●學術、心理學講義●雜錄○宗敎と自由の說○人の爲し得ざる神のなし得る處あり

京橋瀧山町六番地　警醒社

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

東京輿論新誌

第二百四十九号 七月廿八日發兌

（社說）伊藤內閣總理大臣ノ演說ヲ讀ム（論說）租稅ノ定義如何 東海道鐵道ノ敷設（演說）一夫一婦ハ人ノ大倫ナリ第四夫婦ハ一種ノ朋友ナリ、波多野傳三郎（時論）東京五大新聞社說要旨（雜報）官令數件、時事要報數件

東京京橋區尾張町新地七番地　嚶鳴社

農業雜誌

第二百二十四号 七月十五日發兌 ●一冊五錢每月三回發兌●

●目次●製乳の圖●北海道土地拂下規則●小學生徒をして農業實驗を爲さしむるの議○北海道の說●寄書○農家の現狀 夏蚕の病害及衛生法、茄子の作法、山林栽培の勸め、葡萄酒製造法、松の衰色を恢復せしむる法●問答數件●北海道錄事數件

東京麻布本村町二百十七番地　學農私雜誌局

羅馬盛衰鑑 全一冊

評註 石版 插入 頗美本

河津祐之君題字 土居通豫君題字 草間時福君序 沙翁北亞戲曲

鷲林學人 天香逸史 戲譯

正價二圓五十錢○豫約賣價一圓廿錢○府外郵送料廿八錢○

●預約申込期限●本書ハ元價を以て豫約加盟の諸君に頒つ●○預約加盟ハ一千名に限る○滿員の上ハ期限内と雖も謝絶すべし○豫約申込ハ八月二十日限とす○期限后ハ定價に復す○加[illegible]書も期限内に郵便端書を以て御申込あるべし○送本期日八月[illegible]日より著金の順序に隨ひ遞送すべし

[illegible]の崎四丁目六十七番地　原泉堂

[illegible]叢談

余輩が將來中聯か感わり女子[illegible]に限り何人にても無料にて[illegible]稿の郵稅は自弁たるべし[illegible]に應せる諸君の方ハ無[illegible]稿されし但し料[illegible]て[illegible]の[illegible]に應[illegible]稅ハ自弁たるべし

[illegible]淡路[illegible]町[illegible]番地

成田賢雄

中外兵談

每月二回發兌○一冊十錢○郵稅一錢○十冊分代價及郵稅共一圓○

●第一号目次●武功ハ文勳と同視す可らず○堅艦英國より至る○艦船の區別○佛國海軍大臣の海軍政畧○佛國にて甲鉄艦の利害を實地に決せんとす○露國の兵力○露土亞の陸軍○前哨規範○封爾爲日本國王○警醒格言其外十種

東京本郷弓町一丁目廿番地（女學雜誌社隣）中外兵談社

定價

一冊 五錢	郵稅一錢	（但市內無郵稅）
十冊 四十八錢	郵稅十錢	（同前）
廿冊 九十錢	郵稅廿錢	（同前）
卅冊 一圓卅錢	郵稅卅錢	（同前）

女學雜誌代價		
一ヶ月分	十五錢	府外ハ十八錢
二ヶ月分同	三十錢	府外ハ三十六錢
三ヶ月分同	四十五錢	府外ハ五十四錢
半年分同	八十八錢	府外ハ一圓六錢
一年分同	一圓六十錢	府外ハ一圓九十六錢

廣告

一行（廿八字詰）	一回	前金拾錢
同	三回以上	一割引
同	六回以上	二割引

十行以上一割引二十行以上二割引四十行以上三割引

但し不道德なる事物の廣告も謝絶す有益なる事物の廣告は社議の上無代價にて引受く女學に關係の書籍は一部の寄送を乞ひ相當の廣告をなし且つ本誌に批評を

女學雜誌賣捌所

東京神田區淡路町（大賣捌）　巖々堂

東京神田區雉子町　團々社支店
同神田區佐柄木町　東海堂
同日本橋區新葭町　良明堂
同日本橋區馬喰町二丁目　自由堂
同京橋區木挽町壹丁目　萬字堂
同本郷區元富士町　盛春堂
同本郷區春木町二丁目　解明堂
同牛込區肴町　活神堂
大坂備後町四丁目　岡島支店
伊勢國松坂白粉町　家里初枝

東京芝西久保櫻川町（支局）　萬春堂

發行所

東京本郷區弓町壹丁目廿番地

本局　女學雜誌社

持主兼編輯人　巖本善治

印刷人　森田豊

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

明治十九年七月

Digitized by Google

Original from
CORNELL UNIVERSITY